

# 利賀っ子だより



R5. 1. 25

## ○ 「雪は、よいと悪いがある。」

先週の木曜日には、1日スキー学習で雪に親しんだ子供たち。雪が降る地域だからこそできるスポーツを楽しんでほしいと開講式で話しました。講師の先生方に丁寧にご指導いただき、スキーの技能が上達したことを実感できたようでした。

しかし、「10年に1度」と報道されている大寒波のため、25日は市内の小・中・義務教育学校が全て臨時休校となりました。この話を聞いた子供が上記の発言をしました。

明日の休み時間にサッカーをする約束をしていたそうです。「明日は、学校給食週間中で楽しみ献立だった。」「百人一首大会の準備をしようと思っていたのに。」「今日、読みかけの本を読んで明日から新しい本にしようと思っていた。」など、口々に明日に予定していたことや楽しみにしていたことを話し始めました。「まあ、ゆっくりできるということで。」「百人一首の練習ができる。」という、子供たちが、目的意識をもって学校に来ていることが分かって嬉しく感じたと同時に、見方を変えると捉え方も変わってくるということ子供たちと確認できた時間でした。



## ○ 「何が違うんですか？」



【低学年の  
チューリップ】



【中学年の  
チューリップ】

12月に始めたチューリップの水栽培。各学級に2セットずつあります。それぞれの学級で責任をもって栽培しています。

高学年の教室のチューリップが1番に咲き、その後、低学年の花が咲きました。中学年のチューリップは、まだ固いつぼみです。この違いを見つけたTさん。「同じところに（栽培を）始めたのに何が違うんですか？」と質問がありました。

温度の違いかな、それとも日当たりかなと答えあぐねていると「人だって、大きくなるのが早い人とそうでない人がいるから、そういうこと。」と6年生のNさん。何とも分かりやすい、明確な回答でした。質問したTさんも「そっか。」と納得し、花を眺めていました。

Tさんの観察の力、そして、そこから疑問を見付け、解決しようとしたこと、Nさんの的を射た説明に感心しました。

(高田 公美)